

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370400628		
法人名	医療法人 松和会		
事業所名	グループホーム なでしこ		
所在地	岡山県玉野市和田1-12-37		
自己評価作成日	平成 24年 12月 27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiryosyoCd=3370400628-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	平成 25年 1月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玉野市和田1丁目に立地し、気候は温暖で風光明媚な土地柄です。医療面においては、母体が医療法人である事から迅速な対応が出来、特に入居者の方々ご家族様には、安心していただけていると思っております。生活面においては、楽器演奏、嚥下体操、手作り作品を作成するなどのレク活動を取り入れております。
又当ホームは介護施設を意識させない明るく、清潔なゆっくりとした空間作りに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通量の多い道路沿いに立地し、母体となる松田病院が近くにあるため、医療面での適正な対応が素早くでき、家族も安心して預けることができる事業所である。訪問したときに感じたことは、なんともいえない温かい雰囲気と自宅で暮らしているような自然な雰囲気である。職員が一人ひとりの利用者に目を向け、どうすればよりよく暮らせるかを一生懸命に考えて支援を行っていることが分かる。話しの中で「利用者の思いをくみ取らないとグループホームじゃない、職員が一歩踏み出すことは色々大変だけれども、そこから利用者との人間関係が始まっていく」という言葉が印象に残っている。前回と変わったことは、施設長自ら現場で職員と一緒に調理や介護を意欲的に行っている事。この変化が利用者や職員をより理解し、互いの信頼関係を深めることに結びついている。また、日頃から職員の精神面、身体面の健康や状況、利用者の支援や事業所の運営など2人の管理者と話し合いを重ねることにより、統制された安定感のある支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりしたスペースで、その人が望む暮らしを実現したいと誠意と愛情を持って共に生活している	利用者の集まるホールには理念が大きく掲げられている。日常の中で職員は理念を見上げることで、忙しくイライラする気持ちを一新し、利用者に笑顔で接することができるよう心掛けている。開所10年来のシンプルな理念を掲げているが、今後現在の職員の気持ちを加えた新しい理念を作成していきたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	人通りも少なく、挨拶を交わすことは少ないが、外出「散歩」は、季節的な事も毎日ではないが、天候体調をみて、随時行っている。又当ホームを、所帯主として町内会に入会し、地域の行事(とんどまつり、日比中学校文化祭、避難訓練)などにも参加。近隣の方、民生委員さんにもイベントに参加していただくなど交流をしている。	町内会に入会しており、地域のとんどまつり等行事に参加している。楽器演奏や民謡、歌などボランティアの来所も多い。地元の中学生のチャレンジワークも受け入れており、夏祭りの時にボランティアに来てくれることもある。また、近くのスーパーへ買い物に行ったり、通院に行ったりしたときに利用者の馴染みの方と会う機会があり、『久しぶりじゃなー』と話しをすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の生徒さん(2~4人)をチャレンジワークとして受け入れている。(年1回3日間)活動報告で保護者の方のご意見もいただく事ができ活力となっている。又日比中学校の参観日にも参観している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当ホームでの高齢者の生活ぶり、状況の報告などを行っている。又、地域の方々の情報もいただいている。(特に独居の方)今後の取り組みとしては火災、災害時協力体制もお願いして行きたいと思っている。	2ヶ月に1回、定期的に行っている。参加者は家族代表、愛育委員、民生委員、地域包括支援センター職員等である。地域の情報やホームでの取り組みについて報告し、意見交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護法指定介護機関の指定を受け、福祉課の担当者の方とも密に連絡を取っている。又介護保険更新申請時や当ホームでの日常業務の中で積極的に相談し、コミュニケーションを図っている。又推進会議開催、グループホーム協議会参加など、行政だけでなく、他の事業所ともコミュニケーションも図っている	介護保険課の担当職員とは密に連絡をとり、連携を図っている。玉野市にあるグループホームの管理者が集まり、会議を開催しており、その場に市の担当者も出席している。また、介護相談員、市の担当者、介護保険サービス事業所が集まり、利用者の意見を考える三者会議を年2回開催されており、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない…原則はしっかり守っている。玄関施錠については、交通量の多い国道430号線があり、危険を回避する支援が必要である。又重度化に伴いベッドサイドにスライドバー設置、離床センサー設置などご家族に承諾を得て、安全性に取り組んでいる	精神的な拘束も含め、身体拘束はしないという原則に基づき、支援している。新人職員に対し、随時指導を行っている。事業所前の道路が交通量が多いこともあり、玄関の施錠は行っているが、ベランダや中庭に職員と一緒に出るなど利用者が出たいときに外に行けるよう配慮している。	身体拘束について等社内での勉強会は開催していないと伺いました。職員全員が身体拘束に対する意識を統一できるように、勉強会など計画的に行って頂くことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設けてはいるが、「ケア」に係わる「ストレス」「職場の人間関係」に係わる「ストレス」など、職員同士の相談により解消している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名成年後見人制度の利用となっているが無理なく関係は良好である。スタッフにもパンフレットを配り、情報を共有している。又今年度「成年後見制度について」施設内研修予定(講師については交渉中)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に個々の立場に立って取り組んでいる。又、面会時その後のご家族の様子などを伺い、納得、安心していただけるようにゆっくりと時間をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一回の介護相談員さんの受け入れをしている。又運営推進会議を通じて、外部の人には伝えられている。又言うことをためらう御家族等に意見要望を出していただけるように玄関に用紙を準備し、簡易ポストに入れていただくように配慮し、日々の面会簿ご記入へのご協力も感謝している。	面会時や電話などで利用者の状況を説明し、意見や要望を聞いているが、家族が遠慮され、あまり意見を言わないことが多い。事業所側はどんどん意見を言ってもらえることを願っており、随時働きかけをしている。また、利用者の思いや意見を聞いてもらえるよう介護相談員の受け入れを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は面接の機会を設け、現場の職員の意見を尊重している。又代表者、管理者も介護職員として現場に関わり、利用者の状況や実情を把握することに努め、現場の職員の意見や情報をしっかり傾聴し、一緒に取りくみ調整している。	半年に1回、施設長と職員の個人面談を行っている。できるだけ気軽に話し合える雰囲気を作り、個々の意見や状況を把握し、出来る事は取り入れている。また、無記名で職員から意見や疑問を集めており、今後一つひとつの疑問に答えていくよう会議を開催する予定である。職員同士のコミュニケーションも大切に考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各階の管理者により、職員個々の得手の性質を生かし担当を決め、働く意欲、質の確保につなげている。又年1～2回の健康診断を行い職員の健康状態の把握も行い、今後も面談での意見を考慮して行きたいと思っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員に対しては3ヶ月の研修期間を設けている。GH協会や社会福祉協議会からの情報に基づき、全ての職員が各自の立場、経験に応じた研修に出席できるよう配慮している。又研修したい内容も個々に意見をもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉野市GH協会に所属し、研修会、講習会などを利用して意見交換している。又、研修、講習の内容・感じたこと・今後どう生かすか・などレポート報告を回覧し、質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、御家族から今までの様子(生活歴、大切にされていた事など)環境の変化への不安など、出来るだけ多くお話していただけるようご家族にご協力をお願いしている。又体験(おやつ、昼食を一緒に食べていただく、フロアで体感していただくなど)を入居前に2～3回程度お願いし、職員とのコミュニケーションを図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接以外にも密に連絡をし、御家族からの要望・不安などを収集し、その都度当ホームでの様子、普段の生活の風景、それに向けての対処方法などをお話し、ご家族の思いを受け止めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、現在何が必要な支援か・・・？を考え職員全員で速やかに実行している。又ご本人に納得していただけるよう、徐々に支援の工夫をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日のうち入居者の方と和やかに談笑しながら過ごす時間を設けている。(食後のティータイム、野菜作り、収穫などの時間)洗濯物たたみなど。又時折スタッフと一緒にドライブを楽しむなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでの日々の介護の中で、ご家族が関わること(一緒に買い物に行く・外食など)により、ご家族とご本人の距離を近くに出来ている。又衣料品の購入については、業者の方に来居を依頼し、入居者の方と共に選択し購入している。修繕に関しては、ご家族でできない方については職員が携わっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内の支援がほとんどではあるがご利用者によっては近所の方、町内の方の訪問、面会があり、再来し易いよう心がけている。病院受診時、リハビリ通院時の知人との再会を大切にしている。	今までの利用者との関係が途切れないように友達や知り合いの訪問の機会を大切にしている。近所から歩いて面会にきている友人もおられる。病院や美容院、買い物など外出のときには、自宅付近を通過してドライブをしている。壁には家族の描いた地元の風景画が飾られており、絵をみて懐かしく思いをさせ、話をすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	週1回の音楽レク活動、毎日の朝レク体操など個々参加の時間を設けている。又入居者の方々の性格、相性、考え方、好みなどの把握に努めている。相手に対しての強い言葉を発すると思われる時、職員はさりげなく、居心地の良い場所を判断し、導くよう努力している。平等である支援により、安心していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体の病院に入院退居の場合、日々の面会となる。他施設へ移行の場合は、その施設へ情報提供し、又その後の経緯を見守っている。又在宅復帰の方については、イベント参加を促し、今後に向けての継続的なフォローを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、思いや意向を把握できるように支援している。意思表示できない入居者の方には御家族とのコミュニケーションを密にし、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。又個別にゆっくりお話できるように考慮している	利用者の気持ちや思いを把握できるように日常での会話を大切にしている。特に言葉に出しにくい利用者の気持ちを汲むように職員はいつも何をしたらいいのか、考えながら支援している。また、家族から生活歴や情報を聞き、職員間で共有するように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご利用者の所に出向き、面談を行っている。又、当ホームに2~3回は来居していただき、おやつ、昼食を一緒に食べ、生活歴、趣味、こだわりなどお聞きし、アセスメントを作成してゆく。バックグラウンドの提出もご家族に依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌(医療面・生活面として)を表裏に分け、生活面・医療面問わず、心身状態も含め、スタッフにより記録されている。又変化があれば随時24時間生活変化シートに記録し、常に現状の把握に努めている。各担当者を決めることにより、より細やかな気配りを目指している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の状況、注意点(体調、意欲、動作全般)について、一人ひとりの記録を各担当者が、1~3ヶ月を随時記入し、他のスタッフが把握できるように掲示している。又その記録を、介護計画に取り入れ、担当スタッフを中心にモニタリングを実施している。	日頃から職員は利用者本人のよりよい暮らしについて考えている。利用者の変化がパッと見て分かるように、1人1人のメモを用意し、期間中に入退院や変化など起きたことを随時記入している。3ヶ月に1度見直し、職員で話し合い、計画作成に役立てるようにしている。	職員の意識が高く、利用者一人一人の情報の共有やケアの統一など実施できていると感じました。今までのPDCAの繰り返しにより充実してきたものだと思います。今後、利用者のしたいことや希望などを主役の課題に置き、どうすれば達成できるかを考え、ケアプラン作成に取り組んで頂くことも期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応したスタッフが日誌に記入し、情報を共有している。特に不安定時は折れ線にて表現し(24時間生活変化シートに記入)し、次につなげる努力をしている。又、申し送り、カンファレンスの際スタッフ間で意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面においては、専門医(心療内科、歯科、眼科、皮膚科等)受診については、なでしこ車にてスタッフ1名付き添いし、随時対応している。又入院された場合、職員が一日に一回は面会に訪れ、声かけにより安心していただいている。ご家族の介護の軽減については、洗濯物等を持ち帰っている。生活面においては美容院への予約、送迎、ご家族への連絡、買い物なども要望に合わせて随時対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	【ひな祭り、七夕、夏祭り、敬老会、クリスマス会】などのイベントの際、ご近所のボランティアを招き、演奏を披露していただくこともある。中学生の職場体験を通しての交流、近所のボランティアの中学生にもイベント参加していただいている。又地域で行われる避難訓練・行事にも参加し、地域の方々との交流を図っている。又玄関には季節に合った生花を近隣のボランティアさんが飾ってくださっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関に受診、往診にて対応している。ADL向上については、リハビリ通院介助も施行している。又他医療機関(眼科、心療内科、歯科、皮膚科等)にもスタッフを1名増員し、なでしこ車にて通院介助を行っているが、ご家族対応にて通院している方もいる	母体の医療機関をかかりつけ医としている利用者が多く、通院、往診にて健康管理を行っている。本人や家族の希望により他の医療機関への通院も支援している。医療機関が近くにあるため、本人や家族の希望に合わせてリハビリ通院なども対応している。また、緊急時にはいつでも連絡、相談ができ、治療や入院など素早く適切な対応が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。看護職員がいない時は介護職員の記録を下に確実な連携を行っている。又毎日10時に健康チェックを行い、変調者においては、看護職員又は協力病院に指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が医療機関で、24時間対応の為、即入院できていることにより早期治療が行われている。又退院時も医師、看護師からの的確な指示により、早期退院に対応できている又入院された場合、職員が1日に一回は面会に訪れ、声かけにより安心していただいている。又ご家族にも回復状況等、情報交換しながら、速やかに退院できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームが対応可能なこと、対応できないことの内容を入居時に説明している。又、状況変化がある事は御家族に説明し、理解をいただけるよう努めている。又、看取りに関しての考え等を協力病院と共有し、必要が生じた際は主治医、看護師、ケアマネ、御家族と話し合い、書面にて同意をいただく事としている。	看取りについて、入居時に家族に説明をしている。しかし、一人一人の支援内容や状態が異なる上、それぞれの家族の状況や家族間での意見の違いなどもあり、その都度何度も話し合いを重ね、協力医療機関と連携し、家族が納得できるよう対応している。そのためにも日頃から家族との信頼関係の構築に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はないが、急変に対しては、マニュアルを整備し、迅速に対応。即母体の病院に搬送している。応急手当・初期対応については随時講習会への参加も考慮している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	駐車場を避難路として確保し、消防署の協力を得ながら、消火器の使い方、避難訓練、避難路の確認も行っている。平成22年3月スプリンクラー、緊急通報装置を設置。緊急通報装置を使用しての避難訓練も行っている。	年2回、避難訓練を行っている。水害に対しても2階に全員が避難するまでの時間を計測するなど、訓練を行っている。地域住民に対して、回覧板にてお知らせをしているが、今の所参加はない。平成22年にスプリンクラー、緊急通報装置を設置し、防災対策を行っている。	消防署の協力や避難訓練、スプリンクラー設置など事業所の努力により防災対策を強化している。事業所が行っている災害対策について具体的に家族にも説明し、より安心感を持って頂けるよう検討して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の立場に立って、外用薬等塗布する時は、事務所に来てもらい、処置している。排泄に関しては自尊心を尊重し、さりげなくトイレに誘導し確認。利用者の誇りを損なわないように配慮している。	利用者一人ひとりを尊重し、その時の思いを理解するよう心掛けている。話しかけ方、接し方などについて職員は不器用でも一生懸命に対話するようにしている。また、みんながフロアで一緒に過ごすのではなく、個々の意向に添った過ごし方を大切にしており、職員は優しく見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行っている。意思表示の困難な方には、選択肢を幾つか準備し、声かけしている。難聴の方には、曖昧な伝え方にならないようカードなどを利用している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持たれているが、一人ひとりのリズム、体調に配慮しながら過ごしていただいている。午前は受診午後からは入浴などが中心になるが、面会外出など利用者のご都合に寄り添う支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容車が2ヶ月に1回来店し、カットされていたが平成24年12月より個人美容師により利用者ごと、よりゆっくり相談しながらカットできるよう変更した。衣類などはご家族の持参される衣類からコーディネートしたり自分で可能な人にはアドバイスしている。又業者に好まれそうな衣類を持ってきてもらい、その中から利用者、職員相談しながら購入している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については母体の管理栄養士により立てられており、食材についても業者により配達されている。季節に合ったイベントを計画し、利用者にとってどんな物が食べたいか相談しながらメニューの変更を母体に依頼し調理職員が二食(昼・夕)個々の入居者の方々の好みの味・好物や偏食を知り、工夫、調理している。(だべられない物、大きさ、量なども考慮)	専門の職員を配置し、調理をしてもらっている。利用者にもさやえんどうのすじ取りやもやしひげ取りなど食材の下処理など手伝ってもらっている。また、食事が楽しみになるように、いろいろな企画を考え、実施している。巻きずしやサンドイッチを個々に好きな具材で作ったり、お好み焼きなどのバイキング形式、稲荷寿司、お豆腐団子のお雑煮など季節感のあるものを取り入れている。手作りおやつもバリエーションが増え、好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士による献立に沿って食事作りを調理職員が調理している。個々の摂取量、残量チェックなども日誌(医療面に記録し、情報共有している。摂取量の不足気味な方は、その方に合わせた飲み物、食べ物で対応している。又、形態も変化をもたせて支援している。又、1ヶ月に一度(月初め)の体重測定値を重視している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態に合わせて食後は、フロアの洗面所にて見守り、一部介助にて行っている。又口臭の消失の為、うがいにお茶も準備している義歯については、夕食後ポリデント消毒(自己管理の方もいる)している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して対応している。促し、見守りの方あれば、歩行一部介助の方もいる。夜間はPTイレ使用の方もいるが、日中は共同トイレを使用していただき、紙パンツ、パット類も日中、夜間と身体状況に合わせて配慮している。既往歴を考慮して夜間のみ紙おしめ使用の方もいる	利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や自立に向けた支援を行っている。手を叩く、指輪で机をたたくなど利用者それぞれのトイレサインがあり、それを見逃さないよう注意している。日中は紙パンツを使用し、できるだけトイレでの排泄を支援している。オシメの当て方について改めて研修を行い、確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の朝レク体操(ラジオ体操、手話しながら歌を唄う)と水分補給(おやつ時の牛乳)の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。食事時、おやつ時の水分補給の重要性についてもスタッフ間で話し合い、身体を動かすことの大切さも認識し合っているが、一人ひとりに合った便秘対策は必須で内服でも対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当ホームが決めた曜日、時間帯に合わせた入浴が現状である。一人ひとりの体調、身体状況、意向をふまえ、順番の配慮、全介助、一部介助、見守り、各種の椅子(浴槽内、外、足浴、バスター)など工夫をし、寛いだ気分に入浴できるよう支援している	基本的に週2回の入浴支援を行っている。重度化によりシャワー浴のみの方もおられる。その日の利用者の体調、身体状態を見ながら支援を行い、拒否がある場合は無理強いないようにしている。お風呂を楽しみにしている方も多く、快適に入浴できるよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムで休息したり、お昼寝したり、心地よく眠りにつけるよう、日中の活動に配慮している。眠剤を服用されている方には睡眠状況を把握して、日中の生活リズムに影響を及ぼしていないかを確認している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケース毎に整理し、スタッフが把握できるようにしている。服薬時はご本人に手渡し、きちんと服薬できるように確認も行っている。薬の目的、副作用については、大まかに把握できるようにしているが、細微に関しては、看護師の指導を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の共有部分の掃除機かけ、食事後のテーブル拭き、お盆拭きなど積極的にお手伝いして下さっている方もいる。又、季節の掲示物には、その季節に合った歌詞を筆で書いていただき、壁に掲示してレク活動の際、活用している。又、カラオケを好む人も多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時は、花見(車いす・歩行などで近所の公園)やドライブに出かけ、お天気の良い日は中庭の掃除、ティータイムなど楽しんでいる。ご家族との外食、外出等もご家族のご協力により行われている。地域の行事(渋川青年の家まつり、とんどまつり、日比中学校文化祭等)にも参加している。	季節に合わせて花見やドライブなど外出をしている。また、日頃から近所のスーパーへ買い物に出かけたり、郵便局へ一緒に出掛けることもある。天気のいい日には中庭でおやつを食べたり、花や野菜に水やりをする等できるだけ外気浴ができるよう心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化が進み、全員の方の金銭管理については、ご家族の要望により、当ホームが管理しているが、ご近所のスーパーなど買い物に出かけた時などは、ご本人に支払っていただくようにお金を渡し、配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物、年賀状の付き合いの出来る人は少なく2~3人。自ら書けない人が、殆どである。又ご本人希望で電話を取り次ぐことで安心して頂けるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を設け、ソファを置き自由に座られているが、必然的にそれぞれの場が決まってしまった。ワンフロアで入居者同士おしゃべりしたり、スタッフも中に入っての会話を楽しんでいる。照明・温度・湿度を十分に管理し、良い環境の中で過ごされている。	ソファのコーナーがあり、利用者がゆったりと座ってテレビを観たり、話をしたりしている。壁には絵手紙や書き初めなど利用者の作品を飾っており、季節感を感じる。感染症対策のため加湿など配慮している。また、職員が自分の趣味や得意分野を活かしてアイデアを出し、利用者と一緒に楽しむことができるレクリエーションや手作業などに積極的に取り組んでいる。今年から祝日には国旗を掲揚しており、利用者に喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを二箇所に分け、食卓の席を決めている。方法としては、身体の状態、性格、相性などを考慮して、意思決定を促している。又常に入居者の方々の表情、行動の変化にも配慮している。又お天気も良い日には外のテラスでお茶を飲んでいただくなどしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、洋服ダンスについては、事業所が設置している。ご本人所有の物品(タンス、写真、ぬいぐるみ等)については、ご本人の好み(ご家族)に合わせてご自由に設置していただいている。一人部屋で寂しい・と訴えられる方については、居室内にソファなどを設置しスタッフと夜間でもお喋りできる環境づくりをしている	本人や家族の思いで、使い慣れたものや馴染みの物がおいてある。家族が本人の好きな雑誌やお花を持ってくることも多い。しかし、家族が持ってきたもので混乱が起きることもあるので、本人の状態を見ながら家族と相談し、安全を第一に考え、配置など調整している。お部屋の前の暖簾は防災タイプに変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる所に手すりを増やし、浴室の床も滑り止め施行をおこない、安心して入浴していただいている。又一人ひとりの状況に合わせて、目印、家具、ベッドの位置(家庭用ベッド、介護用ベッド)など配慮している		